ケチャップ・オブ・ザ・デッド

作：飛塚周・逗子開成高校演劇部

登場人物

窪田・・・大学生

安達・・・大学生

石橋・・・大学生

ゾンビ

警官

警官 2

１場：取調室

　音楽。幕が開くと薄暗い照明。舞台に立方体のフレーム。

　フレームの中が取調室となる。警官が入ってくる。音楽 F.O.

警官　それで、窪田くん。まずは何があったのか説明してくれる？

窪田　僕は・・・僕たちは、ただ映画をとっていたんです。

警官　映画？

窪田　はい、映画です。

警官　何の映画を？

窪田　ホラー映画です。

警官　どんな？

窪田　最初は・・・いわゆるジャパニーズホラーを撮るつもりでした。

警官　ジャパニーズホラー。

窪田　たとえば、テレビから人が出てくるとか、井戸から人が出てくるとか、仏壇から人が出てくるとか。

警官　いろんなとこから出てくるんだね。

窪田　それで、僕らは近くの山の中に、廃墟があることを聞いて、そこで映画を撮ろうと思ったんです。大学の映画サークルの３人組で。

警官　（写真を見ながら）で、その廃墟ってのがこれね。

窪田　はい。

警官　入ったの？

窪田　え？

警官　廃墟とはいえ、建物には一応持ち主が居るからね、建造物侵入をしたか、ということだよ。

窪田　・・・はい、入りました。

警官　モノは何かとった？

窪田　それどころじゃありませんでした。でも身の危険があったら、近くの建物に逃げ込むのは普通じゃないですか。

警官　ちょっとまって、危害を加えようとしたのは君たちの方じゃないか。

窪田　違うんです、なんといえばいいか。

警官　だって映像残ってるんでしょ。

窪田　・・・はい。

警官　これでしょ？

　　警官は映像を再生する。

窪田の声　俺を撮るな！

謎の声　ああ〜〜！

窪田の声　バカなのか。素直なのか。

謎の声　あ？

窪田の声　死にたくねえだろ！？

鈍い金属の音が聞こえる。警官は映像を止める。

微妙な間。

窪田　たしかにこれは暴行の場面の映像ですけど・・・

警官　音しか入ってないけどさ・・・これ人殴ってるでしょ。

窪田　これは人を殴る場面なんです。

警官　この音は何なの。

窪田　これは、別の音です。やってみればわかりますって、同じタイミングで鳴らしたんです・・・これはフライパンの音です。

警官　今にも襲われそうなのに？

窪田　襲われそうだだったのは、最初だけなんです・・・

警官　じゃあこれはなに、面白半分で人殴った動画じゃなくて、君らが撮影してた映画のワンシーンってことか。

窪田　そうです・・・その、良い映画がとれそうだったので協力してもらったっていうか。

警官　協力ねえ・・・スコップもあって、自分から警察署に自首しにきて、それでなんにも危害を加えてないって、何を言ってるかわからないよ。支離滅裂だよ。

窪田　そうですね。

警官　その言い草は何なの。他人事じゃないんだよ。

窪田　・・・順を追って、話させてください。

警官　長くなりそう？

窪田　そんなには・・・

ノックの音

警官　おう、はいれ。

警官２　被害者、搬送先から連絡ありました。身元が特定できたそうです。

警官　おう、・・・あとでじっくり話聞くからな。

　退出する警官。

窪田　・・・こんなことになるはずじゃなかった。あいつ何だったんだろう・・・いきなり現れて、・・・でもまあゾンビって、いきなり現れるものだけど・・・僕らは、大学のサークルの三人組で映画をとっていました。山の中で。廃墟があったんです。映画を撮っている最中、藪の中から突如現れたゾンビに、驚いて逃げ惑いました。それがことの始まりです。日の暮れかけた頃です。何故そんなことが起こったのか、僕らもわかりません。

２場：夜の森

　叫び声・・・音楽。森の中、夕暮れ。

　走り回る男たちのシルエット・・・その中に一人、ゾンビの姿が。

　照明が変わる、室内。音楽 F.O.息も絶え絶えの三人。虫の声が小さく響く。

石橋　あれ、見たか。

安達　なんでこんな山奥に人が居るんだよ。

窪田　石橋、安達、怪我してないか。

安達　いや～、マジでびびったわ。

石橋　しかもさ、よりによってホラー撮ってるときにびっくり系はきついよな。

窪田　びっくりっていうか・・・あれは・・・

三人　ゾンビ・・・？

　ゾンビのうめき声。

安達　あ～～～～～～やめてくれ死んじまうよ

石橋　嘘だろおい、こんなはずじゃなかったよ。

窪田　窓閉めろ、全部閉めて。

石橋　全部しまってるよ。

安達　静かにしろ、静かに。

窪田　・・・顔見た？

石橋　見た。

安達　見た。

窪田　なんか、ゾンビ特有の顔の青白い感じ出てたよね。

石橋　そういえば窪田、カメラまわってたろ？

窪田　ああそうだった、見てみよう。

安達　どこから湧いて出てきたんだよ・・・

石橋　おれと安達の後ろから来たよな。

窪田　そう、いかにも何か出て来そうなこの暗い岩の陰から・・・

間。

窪田　あ、これだよ。岩の陰じゃないな、結構遠いとこだ。・・・ん？ 地面からゆっくり起き上がって来た？

石橋　服に葉っぱがついてるな。

窪田　ここで撮影してる間中、ずっと地面に倒れてたってこと？

もう一度、うめき声。

安達　あ～死にたくねえ～

窪田　これさあ、ジャパニーズホラーみたいなしっとりした雰囲気で撮るつもりだったけど、こっちのほうがよっぽど怖いな。

石橋　めっちゃ怖い、もういっそ、ゾンビ映画にしちゃう？

安達　お前ら、いい加減多少はビビれよ。

窪田　ん、まあ・・・そうだけど。

安達　なんでそんなに落ち着いてんだよ。

石橋　・・・なんでだろ。

窪田　ゾンビ映画見すぎて、こういうときどうすればいいのか何と無くわかっちゃってるのかも。

石橋　そう、そんな感じ。

安達　どうすればいいんだよ。

窪田　どうするって・・・

石橋　まあ、ビビってるやつは死ぬ。

安達　俺死ぬじゃん。

窪田　あと粋がっても死ぬ。

安達　・・・

石橋　落ち着いて考えて行動しようってことよ。

　　ゾンビのうめき声

窪田　・・・やっぱさ、この状況、神様がこれを題材にしろって言ってんだよ。

石橋　窪田はちょっと楽天的すぎると思うけど・・・。

窪田　だってこんなチャンスなかなか無いよ。

安達　ちょっと待って、お前たちそんなことよりまず警察とかだろ。家にも連絡したいし・・・

窪田　ゾンビ映画の常識では警察は機能しないんだよ。すでに街全体がパニック状態だから、警察とか軍隊に期待しても意味ない。

安達　虚構と現実の区別はつけような。・・・ダメだ、圏外だ。

窪田　だから言ったろ、ゾンビ業界では連絡手段が麻痺するのはあるあるだから。

安達　それとこれとは違うって。

石橋　まあ、一旦設定を整理しよう。

窪田　うむ。

音楽 F.I.

石橋　あのゾンビは走らない。

窪田・安達　あのゾンビは走らない。

窪田　あのゾンビは今の所一人。

石橋・安達　あのゾンビは今の所一人。

安達　食料・水分は十分ある。

窪田・石橋　食料・水分は十分ある。

石橋　警官や公共機関をあてにしない。

窪田・安達　警官や公共機関をあてにしない。

窪田　ビビると死ぬ。

石橋・安達　ビビると死ぬ。

安達　車までダッシュで１分。

石橋　逃げようと思えば逃げられる。

窪田　俺たちは映画をとりにきた。

安達　そこでゾンビを見つけた。

石橋　映画祭まで残り一ヶ月。

窪田　キャスト・スタッフは俺たち三人。

安達　クソみたいな脚本とキャスト。

石橋　クソみたいな機材。クソみたいな監督。

窪田　そこに現れたゾンビ！

安達　突如現れたゾンビ！

三人　撮るしかない！！

窪田　映画を撮りに来た三人の大学生、突如現れたゾンビから逃げるうちに、山奥の廃墟に身を隠す。

石橋　日に日に増えていくゾンビ、いつしか始まる仲間割れ。

安達　極限状態に追い込まれた三人は、救出を待つのを諦め廃墟を脱出する。

三人　決死の思いで向かった街には、すでに人間と呼べるものの姿はなかった・・・！

窪田　・・・完璧だ。低予算映画万歳。おれ、ちょっと今急いで脚本書く。

石橋　おれ、ちょっと音声のチェックする。

安達　おれ、ちょっとこの家の様子見てくる。

窪田・石橋　あ！

安達　・・・何だよ

窪田・石橋　死亡フラグ。

安達　俺でもできることは何かある？

窪田　とりあえず、みんな離れないほうがいい。

　　ノックの音、ゾンビのうめき声。音楽 F.O.

　　照明変わる。屋外。ゾンビがうろついている。

ゾンビ　おあ～・・・うう～・・・あ、どうも、ゾンビです。普段は言葉を喋りませんが、物語の進行のため、時々こうして喋らせてください。生前は、僕もゾンビ映画のファンでしたが、まさか自分がゾンビになるとは思ってませんでした。・・・ゾンビ映画に出てくるゾンビは幸いです。彼らは仲間がいるじゃないですか。僕は、生きてる時も孤独だったけど、死んでゾンビとして蘇ったらもう一度孤独でした。どこかの変な科学者が作った細菌兵器のせい？ それとも何かの呪い？ いずれにしても、こんな人っ子一人いない山の中にゾンビが現れたところで、誰もパニックになりませんでした。生産性のないゾンビですいません。・・・こうして、一人寂しく山の中で朽ちて行くのか

なあ、と思っていたとき・・・彼等が現れたんです。

窪田　（脚本ノートを手にして）石橋、安達、・・・ひとつ問題がある。

石橋　問題？

窪田　ゾンビが俺たちの想定通りに動いてくれるかどうか。

安達　・・・やっぱさ、無理があるんじゃないの？ だいたい日本語通じるのかよ。

石橋　基本的には、人間を食べるために追いかけてくるとは思うよ。

窪田　ちょっと試してみようよ。

石橋　まあ、俺たちの方がまだ動けるし、やってみるか。

安達　ええ～・・・

窪田、石橋、室外に出ようとする。が、動かない安達。

窪田　おい安達、何してんだよ。

安達　いや、外に出るのはあぶねえって。

石橋　ゾンビ映画業界では集団行動が基本だぞ。一人になる方が危険だ。

安達　マジでさ、映画と現実は違うんだから。・・・ゾンビゾンビっていうけど、あれ本当にゾンビか？ 変な服きたヤバイやつじゃないの？関わらない方が良いって。

窪田　だから確かめようって話じゃないか。

石橋　軽～く攻撃してみようよ。頭部以外を狙って。

安達　意味わかんねえよ、挑発するなって。

窪田　ゾンビはさ、攻撃しても痛がらないし頭を破壊しない限り死なないんだよ。

石橋　だから、ちょっと遠距離から攻撃して見て、痛がったらお前の言う通りのただの変態、痛がらなかったらゾンビと認定できる。

窪田　まあ、一回やってみようよ。いくぞ安達。

三人、空気を読み合いながら扉を開ける準備をする。

石橋　３、２、１で行くぞ。・・・３、２、１、ゴー！

　　飛び出す３人。照明変わる。

ゾンビ　うあああ〜〜〜びっくりした。・・・どうも！
安達　ゾンビ怒ってるって。ごめんなさい、すいません、ごめんなさい、ごめんなさい！
窪田　安達、落ち着いてよく見ろ、あいつ全然走れないよ。
石橋　距離をとってれば全然怖くない。
窪田　安達、ここは勇気を出してだな、攻撃してみるんだ。
安達　お、おう・・・。

　　安達、恐る恐る地面の小石を投げつける。痛がる様子のないゾンビ。

ゾンビ　ああ〜！ デッドボール。
窪田　あいつ、心なしか笑って見えないか？
石橋　人間の肉にありつけるっていうので嬉しいのかな。
安達　おーい、ゾンビ〜！ なんとか言ってみろや！
ゾンビ　人間久しぶり〜・・・言葉通じないけど。
窪田　返事したぞあいつ！
安達　ほらやっぱりただの変態なんだって。
石橋　ゾンビさんこちら、手の鳴る方へ。
ゾンビ　人間懐かしい〜
石橋　俺さ、小学校の頃鬼ごっことかやってたとき、こうやって煽られてたんだよ。

窪田　ほう。

石橋　いまこうやって煽る側に回ってみるとさ。

安達　うん。

石橋　めっちゃ楽しいな。

窪田・安達　わかる〜。

石橋　おれ、いいこと思いついた。

窪田　何だよ。

石橋　ラストシーンでさ、・・・いややっぱヤバいよなぁ。

窪田　いいよ、もったいぶるな早く言えよ。

石橋　ラストシーンで、・・・本当に頭殴ったらどうなんのかなって思ったんだよ。

ゾンビ　ああ〜〜〜！？

石橋　怒らせちゃったよ。

　と、安達が大きな石を振りかざして。

安達　これでもくらえ〜！

ゾンビ　（頭をおさえて）・・・。

窪田　ビビったな。

安達　・・・冗談だって。

ゾンビ ホッ。

安達　嘘だよくらえ〜！

ゾンビ　ああ〜〜〜〜！

安達　だから冗談だって。

ゾンビ　ほっ。

安達　（再び石を振り上げ）グッバイゾンビ～！

ゾンビ　ああ～～～～！

安達　・・・なあ、天井ってわかるか？お笑いの用語で、同じことを執拗に繰り返す手法のことだよ。

ゾンビ　あ？

安達　本当にやるわけないだろうが。

ゾンビ　ああ～（納得）。

安達　なんていうと思ったか！

　と、安達、もう一度石を振り上げてぶつけようとする。するとゾンビは安達に襲いかかる。

ゾンビ　ああ～～！！！

石橋　安達大丈夫か！？

安達　うあ～っ助けてくれ！

　と、窪田は石を拾い上げ、安達に覆いかぶさったゾンビに向かって石を叩きつける。

　動かなくなるゾンビ。安達はゾンビの体の下から這い出す。

窪田　大丈夫か安達？

石橋　怪我してないか？

安達　た、多分・・・。っていうか、こいつ死んだのか？

石橋　・・・まだ生きてるな。

安達　頭当てたらやばいって。

窪田　・・・ごめん、なんか俺つい、やばいと思ってやっちゃった。

安達　でも窪田のおかげで助かったんだよ。ありがとう。

窪田　おれ、人殺しとかになんのかな？

石橋　まだ生きてるって。

窪田　でもさ、なんかやばいことしちゃったって分かる。手に生々しい感触が残ってる。

石橋　窪田！

窪田　うん、わかってる、まだ生きてるけど。

石橋　正当防衛だろ。

安達　お前、なんだよ散々煽っておいて。

石橋　は？ エスカレートさせたのはお前だろ。

安達　そうだけど、煽るのお前も楽しんだじゃん。

窪田　いいよ、やったのは俺の責任だから。

石橋　窪田、今の撮ってた？

窪田　あ、スマホ・・・

　　間。

窪田　・・・ねえ、こいつよく見たらさ、首のところ、ロープついてる。

石橋　ロープ？

窪田　多分自殺した人なんじゃないかな。

安達　自殺・・・。

石橋　死にたい人殺すのってまずいのかな・・・既に死んでるっていうか。

窪田　そういう問題じゃないと思う。

石橋　・・・わかった、もういいよ。お前が罪悪感持たないようにカバーしてやってんのに。

　　一人歩き出す石橋。

石橋　帰ろう。

退場する３人。

うめき声をあげながら起き上がるゾンビ。音楽 F.I.

ゾンビ　ゾンビが死ぬ方法は二つです。頭部が破壊されるか、体が腐り落ちてしまうかです。彼らの言う通り僕は自殺しました。理由？ まあ、退屈だったからですかね。ゾンビとして生きるのも退屈です。・・・そこで一つ僕は考えついたんですよ。彼らの映画撮影について行けば、うまいこと頭をパコーンとぶっ叩いて殺して貰えるんじゃないかってね。もちろん彼らに罪悪感は与えたくない。だから、こちらも本気で襲いに行きます。正当防衛だったって言い訳を与えてあげるんです。俺はもう一度死ねるし、彼らもリアリティのある映像が撮れる。・・・一挙両得的な？ 一石二鳥的な？・・・

暗転。

３場：再び取調室

音楽 F.O.

取調室。机の上に証拠品が並べられている。

警官２　スコップ、血、・・・のようなものがついた被害者の衣服。そして映像。お前これでもまだシラ切るつもり？

窪田　シラを切るというわけでは・・・

警官２　この血はなんなんだよ！！ 人の血が流れてんだぞ！！

窪田　血じゃありません。

警官２　じゃあなんだ、絵の具か？ 血糊か？

窪田　ケチャップです。

警官２　人間にケチャップかけるバカがどこに居るんですか～！人間はフライドポテトじゃないんですよ！

警官　まあ、ちょっと落ち着いて・・・

警官２　じゃあなんだ、このシャツちゅーちゅー吸ったらケチャップ味だってか、アホかよ。

窪田　でもケチャップです。

警官　おい、大事な証拠品なんだ、ちゅーちゅーするんじゃねえぞ。

警官２　はい・・・。

警官　ふーん、ゾンビ相手の正当防衛ねえ。

窪田　その時の映像は、スマホをずっと地面に置きっ放しだったので、声しかはいってないんです。

警官　都合のいいところは証拠が残らないんだねえ。

警官２　でも、さっきの話だと、お友達を助けるために被害者のこと殴ったってことでしょ？

窪田　・・・はい、ただでも、傷つけるとか、殺すつもりとかじゃなかったんですよ。

警官２　「殺すつもりじゃなかった」ってみんな言うんだよ。

窪田　でもこうして警察に相談に来てるじゃないですか。まずいことをしたというのは自分でも思ってるんですよ。

警官　殴ったの？

窪田　・・・殴りました。でも傷つけるつもりではなかったんです。

警官　そうか・・・じゃあ、カツ丼でも食うか？

窪田　お腹空いてません。

警官２　早いとこ吐いちまえよ、楽になるぜ。おえ～って。

警官　それで、廃墟に戻ってどうしたの？

窪田　映像を確認したり、今後どうするか話し合ったあと、雨もしばらくやまなかったので帰りました。

警官　なんで映像を確認したの？

窪田　・・・映画に使えそうな場面がないかどうか、探してたんです。

警官　人のことでっかい石で殴りつけておいて映画の心配ですか。

警官２　てめえ、本当に悪いことしたと思ってんのか？

窪田　気が動転してたんです。それに、ロープのことを確かめたかったんです。

警官　ロープって何。

窪田　ゾンビの首にあったロープのことです。

警官　何を確かめたの。

窪田　最初にゾンビが現れた時の映像です。安達と石橋が、一緒にいた友達二人を写してた時に、背後から現れたので。

警官２　ちょっと何言ってるかわからないんだけど。

窪田　森の中の木の枝のどこかに、ロープが写ってないかと思ったんです。映像の背景のどこかに写ってたら、自殺した人だって分かるので。

警官　・・・それで？

窪田　はっきりとではありませんが、それほど高くない木の枝に、途中から切れたロープが写っていました。

警官　間違い無いの？

窪田　それは、今日山の中に入って確かめました。間違い無いと思います。

警官　なんだかねえ・・・。

窪田　なんですか？

警官　ちょっと常識からかけ離れすぎてて、頭がついていかないよ。ゾンビとか言われてもさあ、にわかには信じられない。

窪田　・・・そうですね。

警官　（おもむろに部屋の外に出て）お～い、カツ丼頼むよ。３つだよ３つ。俺も腹減ったんだよ。速攻で頼むぞ。

警官２　俺、オムライス食べたかったっす・・・。

警官　なんだって？

警官２　さっきケチャップの話聞いたらオムライス食べたくなって・・・。

窪田　前に聞いたことあるんですけど、このカツ丼代って、あとでちゃんと請求されるんですよね。

警官　え？ いいんだよそんなの。奢るって。大学生だろ。俺は働いてんだ。

窪田　・・・ありがとうございます。

警官２　ありがとうございます。

警官　馬鹿野郎、お前は払えよ。・・・それで？

窪田　なんですか？

警官　カツ丼が来るまで、続きを話してくれよ。

窪田　はい。・・・僕らは家に帰った後、また明日、・・・つまり今日ですが、今日の早朝から、また集まろうということになったんです。今度は初めから、ゾンビ映画をとるという準備をしていこうと。

４場：朝の森

　暗転。音楽。スマートフォンのライトが森を照らす。３人は未明の森を歩く。

　３人は立ち止まりスマートフォンのライトを消す。石橋・安達、映画っぽい雰囲気で歩き始める。

窪田　よーーい、アクション！

　照明が点く。朝。

石橋　（芝居）安達ぃ、ロケハンやるったって、こんな夜中にくることはねえだろ。

安達　（芝居）ビビんなって！ いいなあ〜雰囲気たっぷりで。

石橋　（芝居）ビビってるとかじゃなく安全面でさ・・・

安達　（芝居）馬鹿野郎、安全を気にしてて良い映画がとれるかよ！

　しばらく歩き回る二人、それを撮影する窪田。

石橋　（芝居）おい・・・あれなんだ？

安達　（芝居）あ〜？

石橋　（芝居）建物・・・？

安達　（芝居）いいじゃん、入ってみようぜ。

石橋　（芝居）ちょっと、待って。本当にいるかもしれないよ？

安達　（芝居）ばかだなぁ〜ゾンビなんて居るわけないじゃん。

石橋　（芝居）いや、芝居じゃなく、一応確認してから入ろうよ。（窪田に）一旦カメラ止めて。

窪田　（芝居）えっ止めるの？ そういう場面だからさ。

石橋　（芝居）でも安全かどうか確かめて・・・

窪田　（芝居）お前たち、演技が下手なんだからさ、真実のリアクションを撮ろうぜ。逆に居たらいたで面白くない？

安達　（芝居）面白くないんだが。

石橋　（芝居）ドキュメンタリーっぽく撮って行く感じね。

窪田　（芝居）そう。

安達　（芝居）こういうやりとりも入っちゃっていいの？

窪田　（芝居）まあ、ご愛嬌ってことで。レッツゴー。

石橋　（芝居）開けますか・・・

　ノックをする石橋。建物の中で飛び起きるゾンビ。

石橋　（芝居）返事がない。

安達　（芝居）開けよう。

ゾンビ　（ドアが開いた瞬間に）グッモーニン！

石橋・安達　（素で）うわあ〜〜〜！！

窪田　（素で）出た〜〜〜！

石橋　（素で）ちょっと展開早すぎない？

窪田　（素で）つづけろ！

石橋　（芝居）・・・こ、こいつは一体何もんだ？

安達　（芝居）まさか、ゾンビの話してたから本当にゾンビが出たってことか？

石橋　（芝居）噂で聞いたことがある。たしかこのあたりの山の中に、謎の科学者がいたと・・・。

安達　（芝居）謎の科学者？

石橋　（芝居）そう、戦時中密かに研究されていた細菌兵器の開発に携わった科学者だ。終戦後の裁判から逃れるために、この辺りの山の奥に身を隠したという・・・。

窪田　（素で）ちょっ～と説明がくど過ぎるかなあ。

安達　（芝居）そ、それでこいつは？

石橋　（芝居）もしかするとその、細菌兵器の影響で変わり果てた博士かもしれん。

ゾンビ　陳腐～、それちょっと陳腐～！

安達　（芝居）何か叫んでやがる。

石橋　（芝居）安達、気をつけろよ、窪田も距離をとれ。

窪田　（素で）うーん。

ゾンビ　う～ん。

窪田　（素で）一旦カット。

石橋　なんだよ。

窪田　芝居がねえ、ちょっと大仰すぎるっていうか・・・語り口が説明的。

安達　俺もそれ思った。

ゾンビ　あ～。

窪田　あ、そうそう、俺いいもの持って来たんだよ。・・・ほら、ロープ。

安達・石橋　（素で）ロープ？

ゾンビ　え、絞め殺されんのおれ？

窪田　（素で）こういうカットの合間の時にゾンビのこと繋いでおこうと思って。

窪田、石橋、協力してゾンビの腰にロープを巻きつける。

ゾンビ　おれ、散歩中の犬みたい。

窪田　（素で）でさあ。こんな早い段階で設定の説明しなくていいから、ドアあけてからもう少し逃げ回ろうよ。

ゾンビ　賛成。

石橋　（素で）じゃ、ドアを開けたところから撮り直そう。

　三人、ゾンビを廃墟の中に戻しロープを解き、廃墟の外から再び撮影をはじめる。

窪田　よーーーーい、アクション！

石橋　（芝居）おい・・・あれなんだ？

安達　（芝居）あ～？

石橋　（芝居）建物・・・？

安達　（芝居）いいじゃん、入ってみようぜ。

石橋　（芝居）ちょっと、待って。本当にいるかもしれないよ？

安達　（芝居）ばかだなぁ～ゾンビなんて居るわけないじゃん。

石橋　（芝居）いや、芝居じゃなく、一応確認してから入ろうよ。（窪田に）一旦カメラ止めて。

窪田　（芝居）えっ止めるの？ そういう場面だからさ。

石橋　（芝居）でも安全かどうか確かめて・・・

ゾンビ　グッモーニン！！！

窪田　（素で)・・・出てくるの早いよ。

ゾンビ　真実のリアクションだね。

安達　（芝居）走れ！ 逃げよう！

　三人、走る。

ゾンビ　お～い、待ってくれ～！

窪田　（素で）・・・カット！・・・はぁ、今のカット良かった・・・あいつナイスタイミングだった・・・。

安達　（素で）いや、もちろん演技としては良かったかもしれないけどさ、俺と石橋は近くで演技してるからちょっと身の危険感じたぞ・・・。

石橋　（素で）マジで、窪田はいいよ距離あるから。

窪田　（素で）それで、次の場面は～、ど定番ですね。武器を用意するシーン。

石橋　（素で）ああ、ちゃんと持って来たぞ。小道具。

安達　（素で）用意しちゃおっか。

窪田　いやいや、いま用意しちゃダメだよ。ゾンビが迫ってるときに慌てて出して来るんだから。。

安達　そうだな。

ゾンビ　お～い。

石橋　来た！ 窪田、カメラ回せ。

窪田　よーーーい、アクション！

石橋　（芝居）あれ、見たか。

安達　（芝居）なんでこんな山奥に人が居るんだよ。

窪田　（芝居）石橋、安達、怪我してないか。

安達　（芝居）いや～、マジでびびったわ。

石橋　（芝居）しかもさ、よりによってホラー撮ってるときにびっくり系はきついよな。

窪田　（芝居）びっくりっていうか・・・あれは・・・

三人　（芝居）ゾンビ・・・？

ゾンビ　ゾンビでーす！

三人　（芝居）うわ～～～！

安達　（芝居）な、何か、武器になるものはないか？

石橋　（芝居）武器になるもの？

窪田　（芝居）機材しか持ってねえよ。

石橋　（芝居）窪田、お前護身術とかならってなかった？

窪田　　護身術？

安達　（芝居）お前知らねえのか？ 例の低予算ゾンビ映画でやってたやつだよ。

石橋　（素で）お前、それはパクリじゃん。

ゾンビ　ゾンビ入りまーす！

窪田　（素で）ごめん、もう一回カット。はい、ゾンビさんちょっとつないでおいて。

　窪田、石橋、再び二人でゾンビをつないでおく。

ゾンビ　ゾンビ、休憩はいりま〜す。

窪田　あのね､､､君たち緊張感がないよね。

安達　なんかこう、俺たちがあいつを見慣れちゃったのはあると思うな。

石橋　あとこれ、もっと前に言えば良かったんだけど、物投げるのとか長いもので叩くのって普通じゃん？ 映像として面白みが無い。

窪田　それはねえ、俺も脚本書きながら思ってたんだよね。

石橋　もっとさあ、なんか見ててワクワクするような武器がないと。

窪田　ワクワクかあ・・・

ゾンビ　ゾンビ映画の重要なポイントは、どのようにゾンビを殺すかというところです！

安達　・・・なんか言ってる？

ゾンビ　人はね、根源的に暴力が好きなんだよ。プロレスとか、ボクシングとか、バイオレンス映画とか！

窪田　さっきからあいつ、いろいろといいタイミングすぎるよな。

石橋　（素で）もしかして、人間の言葉通じてんじゃないの？ おーい、ゾンビ。

ゾンビ　通じてまーす。

三人　（素で）返事したぞ！？

ゾンビ　でも俺の言葉は通じない。

窪田　（素で）うーん、犬とか猫でも呼べば返事するけど、ゾンビに返事されると驚くなあ。

ゾンビ　ま、そうだよね。

石橋　（素で）また返事したみたいだ。

　　窪田たち、歌うようにはやし立てる。するとゾンビも反応する。

全員　うわ～～～～～～～～～！？

窪田　決をとります。・・・このゾンビ、言語が通じてると思う人。

　　三人挙手。窪田と石橋、目を見合わせ、ゾンビのロープを解く。

　　すると、ゾンビ、中途半端な高さに手を挙げながら三人に迫る。

安達　これは挙手と認めていいものか？

ゾンビ　これ以上あがんないんだよね～。

窪田　挙手っていうか、ゾンビの基本スタイルだな・・・。

石橋　・・・（ゾンビの首にかかったロープを見て）そうだこれ使えんじゃん。

安達・窪田　え？

石橋　ロープ、使えるじゃん。

ゾンビ　首絞めてもゾンビしないよ～。

石橋　このロープを、・・・こうやって石に巻きつけて・・・。こうやって振り回す武器にするの、どう？

安達・窪田　ありよりのあり。

ゾンビ　怖っ。

石橋　窪田、次の場面って廃墟に逃げ込んで籠城するんだろ？

窪田　そうだよ。

石橋　じゃあとりあえず、廃墟に逃げ込むまでの、武器第一弾ってことでいい？

窪田　脚本上の都合はあんまりないけど、映画撮影に来た大学生が、なんでロープを持っていたのかってことになるなあ。

安達　ゾンビが自殺の時に使ったロープってことでいいんじゃない？

　沈黙。

安達　あ、それは現実なのか。すまん。

ゾンビ　俺も一瞬切なくなったぞ。

窪田　スタント？ をやるってことで・・・。

石橋　スタントできそうな人間いないけど。

窪田　うるさい！ でもそのロープで岩をぶん回す案いいと思うんだよ！ それで行きたい。異論は？

安達　俺もいいと思う。

石橋　いいと思う。

安達　（窪田の頭上を指差し）あっ！

窪田　なんだよ。

安達　ゾンビが自殺のときに使ったロープ・・・

石橋　だからそれは現実だって

安達　窪田、頭の上ちょっと見てみ

窪田　はぁ～～～？ (頭上に切れたロープを発見し)はぁ～～～！？！？！？

　長い長い間。なまなましい死の痕跡に、三人は言葉を失う。

ゾンビ　そうです。あの枝です。（ロープをさして）ここで切れちゃったみたいですね。

安達　嘘だろ・・・

窪田　嘘じゃないっぽいな。

石橋　どうする？ やめとく？

窪田　・・・いや、もう一度、逃げて来たところから。ゾンビさん遠くへ行ってもらって・・・。

　　安達、ゾンビを連れて遠くへ行き、走って戻ってくる。

窪田　よーーーい、アクション！

安達　（芝居）いや～、マジでびびったわ。

石橋　（芝居）しかもさ、よりによってホラー撮ってるときにびっくり系はきついよな。

窪田　（芝居）びっくりっていうか・・・あれは・・・

三人　（芝居）ゾンビ・・・？

ゾンビ　ゾンビでーす！

三人　（芝居）うわ～～～！

　　三人は走って行く。しばらく走った先で、

安達　（芝居）な、何か、武器になるものはないか？

石橋　（芝居）おい窪田、お前スタント用のロープあっただろ？

窪田　（芝居）ロープ？ なんに使うんだよ。

石橋　（芝居）つべこべ言わずにさっさと出せ！おい、安達、お前ちょっとでかい石持ってこい。

安達　（芝居）石？

石橋　（芝居）早くしろ！

ゾンビ　ゾンビはいりまーす！

安達　（芝居）石ってどれくらいのサイズの石だよ！

石橋　（芝居）そうだな、枕ぐらいのサイズだ。

安達　（素で）・・・枕とは？（芝居）・・・こ、これでいいか？

石橋　（芝居）ありがてえ、最高な枕だ。・・・これを・・・・こうして・・・！

安達　（芝居）おい、くるぞ！

石橋　（芝居）・・・できた！ みんな伏せろ！

　と、安達と窪田はとっさに伏せる。石橋、石をくくりつけたロープを振り回す。

　ゾンビはその光景をみて歩みを止める。

窪田　（素で）これ・・・派手だなあ。

安達　（素で）かっこいいぞ石橋・・・。

ゾンビ　全然近寄れないじゃ〜ん。

石橋　（素で）・・・（振り回しながら）窪田・安達！

窪田・安達　（素で）どうした〜？

石橋　（素で）多分、順番間違っちゃったな俺。

窪田　（素で）どういうこと？

石橋　（素で）これ、ぶつけたらゾンビ倒しちゃう。・・・必殺技だよ。

安達・窪田　（素で）ああ・・・。

石橋　（素で）ちょっと作戦タイム。

ゾンビ　さっきから無計画じゃない？

窪田　いや〜派手な場面でいいと思ったんだけどなあ。

石橋　初っ端から攻撃力高すぎた。最初はもっとしょぼい武器でいいじゃん。

安達　どうすっかなあ・・・。

安達　あ、あれでいいじゃん。

石橋　ん？

安達　石橋、さっき岩をぶつけにいくつもりで振り回してただろ？

石橋　そうだけど・・・。

安達　岩をぶつけるつもりでいかないで、ぐるぐる巻きになればよくない？

窪田・石橋　ああ〜。

安達　岩をぶつけようと思ったけど、結果的にぐるぐる巻きになるってパターンは？ どうだ窪田、廃墟に行くまでの時間稼ぎにもなる！

窪田　ありよりのあり。・・・でも俺も一つ思いついたんだ。

石橋　お、なんだよ。

窪田　さっき・・・振り回してたらあいつ近寄ってこれなかっただろ？

石橋　そうだけど。

窪田　振り回しながら廃墟までちょびちょび移動するってのは？

安達・石橋　・・・微妙。

ゾンビ　ゾンビ映画ではこういう微妙な場面が人気だったりします。

窪田　じゃあいいよ！ 最初だけちょびちょび移動しようよ！ そのあとぐるぐる巻きにしていいから。

石橋　うーーーん、まあいいか。物語は繋がるし。

窪田　最初ぶんぶん、その後ちょびちょび、最後巻き巻きの流れで。

安達・石橋　OK

窪田　よーーーい、アクション！

ゾンビ　近づけねえ〜！

石橋　（芝居）やつ、近づいてこれないぞ。

窪田　（芝居）このまま、このまま回し続けろ！

安達　（芝居）もう一度、あの建物に逃げ込もう！

　岩を振り回し続ける石橋、四つん這いで歩く安達と窪田。

石橋　（芝居）窪田、安達、いいニュースと悪いニュースがある。どっちから聞く？

窪田　（芝居）いいニュースから！

石橋　（芝居）廃墟が見えてきたぜ､､､あと１００ｍくらいで着く。

安達　（芝居）悪いニュースは？

石橋　（芝居）俺の腕が､・・・もう俺の腕がもたねえ・・・。

安達　（芝居）嘘だろ！？もう少し頑張ってくれよ！

石橋　（素で）いや、これわりとまじで二の腕に来る。

窪田　（芝居）石橋、そろそろ潮時だ。その石で、あいつの頭を狙え、絶対に外すなよ。ワンチャンスで決めろ。

石橋　（芝居）簡単には言うけどよ・・・やってみるよ。

安達　（芝居）頼む！

窪田　（芝居）頼む！

　　と、石橋がひょろひょろっと投げたロープはゾンビに絡みつく。

ゾンビ　め〜っちゃ計画通り。

石橋　（芝居）ちくしょう！ 外した！

安達　（芝居）でも今がチャンスだ！　走って逃げよう！

　　と、走り去る三人。

　　ゾンビはしばらくロープを外すために転げ回る。照明変わる。

ゾンビ　みなさん、見ての通りです。・・・僕、割と楽しんでます。人間として生きていた頃には、こんな風に誰かに必要とされたことがありませんでした。孤独な夜に僕は映画を見ました。美しい夢を見ていました。映画の中の登場人物たちは、スクリーンに映らなかった多くの人々など最初から存在しなかったかのように、ひとつの世界をつ

くりあげます。例え群衆の中の一人でも、例え台詞が一言だけだとしても、例え残虐に嬲り殺されるゾンビだとしても、映画に登場すれば、それは存在を許されているのです。僕はいつも、スクリーンの外側の人間でした。だからいまは楽しいんです。さ、おいかけま〜す。

　ゾンビが下手に去る。照明変わり、再び３人が走りこんでくる。部屋の中。

安達　窪田・・・この後の場面は？

窪田　このあとは、お前ら二人がゾンビに感染することになる。

安達　その撮り方が難しいじゃんか・・・。

石橋　俺もそれ思ってた。

窪田　一人は、こうやってリラックスしてるときに、突如やって来たゾンビに引っかかれちゃうことにして・・・

安達　引っかかれる場面をとるのが難しいじゃん。

窪田　それはカメラの外でやってもらう。

安達　・・・？ どういうこと？

窪田　石橋、じゃあお前扉のそばにいろ。そんで俺が安達を写してるときに、急に扉の方で襲われる音がするんだ。

石橋 ・・・うん。

窪田　それで外に引きずり出されて死ぬ。

石橋　えっ、あっけないな。

安達　でもお前、その服の下、準備万端なんだろ？

石橋　まあね。

窪田　ちょっと見せてみろよ。

　石橋、パーカーの前を開くと血塗れになったようなＴシャツを着ている。

石橋　これ、ケチャップでやったんだけど、割とクオリティ高くない？

窪田　最高だよ。それ、引きずり出される時にパーカーの前の部分ぶわ〜って開けてね。

石橋　了解。

窪田。ちょっとリハーサルしよう。・・・スタンバーイ・・・よーーーい、アクション！

安達　（芝居）あ〜、いてえ！

窪田　（芝居）どうした安達！？

安達　（芝居）さっき、森の中で足をくじいた。

窪田　（芝居）どこだ、見せてみろ・・・

石橋　（芝居）扉は俺が押さえておく、焦らず手当てしてくれ。

窪田　（芝居）・・・骨は折れてねえよ。いざとなったら、おぶってでも逃げてやるよ。

安達　（芝居）へへっ、片足でもあいつよりは早く走れるよ。

窪田　（素で）んで、このあたりでガシャーンと。

石橋　（素で）あっこのタイミングで？

窪田　（素で）そう、あんまり間髪いれずに・・・

安達　（芝居）へへっ、片足でもあいつよりは早く走れるよ。

石橋　（芝居）・・・（自分でドアを勢いよく開けながら）うわ〜〜〜〜！！

窪田・安達　（芝居）石橋〜〜！！

窪田　これで一人死ぬ。

安達　で、襲われてる石橋を助けに行くかどうかで俺と窪田が揉めるんだな。

窪田　そういうこと。

安達　喧嘩の末に一人で助けに行った俺が、あっけなく感染して戻って来る、と。

窪田　そういうこと。

ゾンビ　おまたせ〜。

石橋　・・・おい、あいつもう来たぞ。

窪田　ちょうどいい、あいつにも持たせなきゃいけないものがある。

安達　俺もちゃんとブツ用意したぞ。・・・(腸のようにつながったソーセージを取り出し)・・・これでいいか？

窪田　おお〜、内臓っぽい。

石橋　いや、ソーセージじゃん。

窪田　いいか、これは内臓、内臓です。どっからどうみても内臓。

石橋　ソーセージにしか見えないよ。

窪田・安達　内臓！

安達　これをあいつに絡みつかせておけばいいよな。じゃあ、石橋頼んだ。

石橋、ソーセージを投げ縄のようにゾンビに引っ掛ける。

ゾンビ　ちょっとハワイっぽい。

窪田　絶妙なチープ感だね。じゃあ、ゾンビさんは玄関に届きそうで届かないぐらいで縛っておいて。

石橋　おっす。

窪田　よーーーい、アクション！

安達　（芝居）あ〜、いてえ！

窪田　（芝居）どうした安達！？

安達　（芝居）さっき、森の中で足をくじいた。

窪田　（芝居）どこだ、見せてみろ・・・

石橋　（芝居）扉は俺が押さえておく、焦らず手当てしてくれ。

窪田　（芝居)・・・骨は折れてねえよ。いざとなったら、おぶってでも逃げてやるよ。

安達　（芝居）へへっ、片足でもあいつよりは早く走れるよ。

石橋　（芝居)・・・(自分でドアを勢いよく開けながら）うわ〜〜〜〜！！

窪田・安達　（芝居）石橋〜〜！！

ゾンビ　うおあ〜〜！！！

安達　（芝居）おい、どうすんだよ！　石橋が！　石橋食われちまったよ！

窪田　（芝居）・・・石橋！

安達　（芝居）ぼーっとしてんじゃねえ、助けに行かなきゃ。

窪田　（芝居）諦めろ安達！　石橋には悪いが、あれはもう助からねえ・・・。

安達　（芝居）バカ言うな、お前友達だろ？　・・・わかった俺一人でやるよ。俺は石橋の・・・友達だから。

窪田　（芝居）バカ言ってんのはお前だよ安達。見ただろあの腹、腸が飛び出てソーセージにケチャップかけたみたいになってた。

安達　（芝居）ただ引っかかれただけだよ・・・

窪田　（芝居）あのなあ、無くなったものを嘆いたってしょうがねえ、今あるものを大事にしようぜ。

安達　（芝居）無くなった？　・・・なくなってねえよ、石橋は死んでねえ。・・・（扉に向かい）・・・石橋～！今助けに行くぞ！

ゾンビ　うお～。

窪田　（芝居）ほら、もう返事は聞こえない。俺たちが死なないことが重要だ。

安達　（芝居）・・・（扉を開け）・・・石橋、起きろ、まだ死んでねえだろ！

ゾンビ　（芝居）届かないよ～！！

安達　（芝居）石橋～！

　と、ゾンビ化して起き上がった石橋が安達を噛む。

安達　（芝居）・・・嘘だろ・・・？

窪田　（芝居）早く戻れ！

石橋　（芝居）うお～

　部屋に駆け込む安達。

窪田　（芝居）・・・噛まれたのか？

安達　（芝居）そんな、石橋まで・・・。

窪田　（芝居）ゾンビになってたよな。・・・

安達　（芝居）どうしよう・・・俺、俺もゾンビになっちゃうのか？・・・

窪田　（素で）・・・カット。

安達　はぁ～？ 渾身の演技だったろ何がダメなんだ。

石橋　割と良かったように思ったんだけど。

窪田　噛まれたならさあ、やっぱり血が欲しいんだよね。血も出てないのに何が「俺もゾンビになっちゃうのか？」だよ。

安達　ん～、まあ。

石橋　ケチャップは持って来たよ？

窪田　じゃあさ、石橋お前、扉の外でケチャップスタンバイしておいて？

石橋　スタンバイ？

窪田　口の中にケチャップ溜めておくんだよ。で、安達に噛み付いた時につける。

石橋・安達　気持ち悪っ！

窪田　なんだお前ら、どっちの方が面白いよ。

安達　そりゃケチャップありの方が面白いけど・・・着替えとかもってきてないし・・・。

窪田　うるせえ！ やるぞ！ 扉を開けるところから・・・よーーーーい、アクション！

安達　（芝居）・・・(扉を開け)・・・石橋、起きろ、まだ死んでねえだろ！

ゾンビ　届かないよ～！！

安達　（芝居）石橋～！

　と、ゾンビ化して起き上がった石橋が安達を噛む。

安達　（芝居）・・・嘘だろ・・・？

窪田　（芝居）早く戻れ！

石橋　（芝居）うお～（安達の肩にケチャップを吐き出す）

安達　（素で）ああ～～～～～～～！！？？！？！？？

部屋に駆け込む安達。

窪田　（芝居）・・・噛まれたのか？

安達　（芝居）そんな、石橋まで・・・。

窪田　（芝居）ゾンビになってたよな。・・・

安達　（芝居）どうしよう・・・俺、俺もゾンビになっちゃうのか？・・・

窪田　（芝居）・・・どうやら、そのようだな。（素で）・・・ダメだ笑っちゃうわ、カットカット！

安達　はぁ～！？ 何がダメなんだよ。ほんっと気持ち悪いわ。

石橋　やる方も気持ち悪いんだよこれ・・・

窪田　ごめんごめん、ここから勢いでラストシーンとってくから。

安達　頼むよマジで。

窪田　ラストシーン。

安達　うん。

窪田　（カバンから金属スコップを取り出し）俺が、ゾンビ化した安達、石橋を順番に殴り倒し、最後にゾンビを倒す。その間は、カメラはずっと天井を写している。音だけで説明するんだ。

石橋　うん。

窪田　その最後の一撃の瞬間に合わせて、ゾンビの叫び声！

石橋　どうやって叫ばせるの？

安達　・・・まあ、ラストだしリアルに当てに行く？

ゾンビ　きました～！

窪田　それなんですが・・・

安達　はい。

石橋　一度死のうとした人ではありますが・・・

窪田　皆さん納得していただけると思うのですが・・・

安達　何なんですか？

窪田　決をとります。

石橋・安達　はい。

窪田 ラストシーンの撮影、ゾンビのことは殴らないことに賛成の方。挙手。

三人挙手。

ゾンビ　おいおい話が変わって来たぞ。

窪田　当たり前だろ！映画なんて嘘なんだから！嘘のためにリアルに人が傷ついちゃまずいだろ。倫理！

安達　よかった〜

ゾンビ　よくねえよ！

窪田　何回かテイク重ねれば良いし。・・・じゃあ、俺がスコップ振り上げて、ゾンビが叫んだら、石橋、お前フライパンとお玉でカーンって音出してくれ。

石橋　了解。

ゾンビ　こりゃ〜ここから本気で襲わないといけませんね。

安達　・・・質問。

窪田　はい。

安達　そのあとはどうなんの？

ゾンビ　俺どうなっちゃうの？

窪田　ゾンビ映画ではさ、物語の終わりに問題が解決することの方が少なくて、また別の問題が提起されて終わるんだよ。

石橋　そう、例えば閉鎖された街からは抜け出したけど、その先の街でもゾンビが繁殖してた〜みたいな。

安達　いや、映画の話じゃなくて。撮り終わったあと・・・ゾンビ、置き去り？

ゾンビ　置いてかないで。

石橋　どうするつもり？

安達　例えば・・・病院に連れてくとか。

石橋　病院に連れてって、どう説明すんだよ。

安達　自殺未遂？ ご遺体？

ゾンビ　ゾンビ。

安達　何て言うべきかわからないけど、身分証とか見せてさ・・・財布の中に入ってるんじゃない？

ゾンビ　えっ、やめてよ盗みだよそれ。追い剥ぎ禁止！ そういうの禁止！

　三人、ゾンビを拘束し、尻ポケットから財布を抜き出そうとする。と、石橋が財布を抜き出し。

石橋　なんか悪いことしてる気分になるなぁ・・・

窪田　免許証か保険証入ってる？

　間。免許証を見つけ、ゾンビの本名を知る三人。また別の紙切れを見つけ。

石橋　これ何だ・・・(紙を読み上げる)・・・お父さん、お母さん。最後まで親不孝な息子ですみません。遺書だよ。

安達　遺書？

石橋　（紙を読み上げる）僕はもう生きていく希望をなくしました。僕はどうやら、世間の人々のような社交性もなく、協調性もなく、また友人も少なく、異性からも愛されず、つまりこの先の長い人生を苦しみながら、孤独に生きていくことが決定しているような気がします。お父さん、学費払ってもらってたのにすみません。お母さん、本当はもう一度、お母さんのおにぎりが食べたいです。けど食べてしまったら多分、死ぬ勇気がなくなるので、やめておきます。この遺書を見つけるのがどなたか分かりませんが、あるいは誰にも見つからず、土に帰っていくかもしれませんが、もし見つけた方が居れば・・・下の電話番号の両親に知らせてください。・・・祥太。

窪田　・・・やっぱりこいつ、何かしら感情があるんじゃないか？

ゾンビ　死んだら、何も考えなくて済むって思ってたら、こんなことになっちゃったんだよ。

安達　これ、映画とってる場合じゃないと思う。

ゾンビ　撮ってくれ。俺と一緒に映画撮ろうよ。俺のこともう一回死なせてくれ。

窪田　撮ろう。最後まで。その後は・・・安達、石橋、撮り終わったら、警察行こう。・・・病院の方先かな。

ゾンビ　ゾンビの姿で世間に戻ったら、生きてた頃より馴染めねえよ。

安達　分かった。撮ろう。

石橋　分かった。

ゾンビ　みなさん、ここからは彼らの思い通りにはさせません。ゾンビ本気出します。

窪田　よーーーーい、・・・アクション！

窪田　（芝居）安達・・・最後に何か言い残すことはないか？

安達　（芝居）あ・・・俺がゾンビになったら、遠慮せず・・・殺してくれ。

窪田　（芝居）わかった。

安達　（芝居）・・・それともう一つ。

窪田　（芝居）なんだ、なんでも言ってくれ。

安達　（芝居）俺が最後の最後まで、楽しく映画を撮っていたこと、忘れないでくれよ。

窪田　（芝居）わかったよ。・・・安達、俺、お前と映画を撮れて・・・、安達？　・・・安達～！

　意識を失い倒れる安達。窪田、傍にスマートフォンを起きゆっくりと立ち上がりスコップを構える。

安達　（ゾンビ化して）あ、ああ・・・

窪田　（芝居）安達、今までありがとう！！（振り下ろすと同時に石橋がフライパンを鳴らす）

安達　（芝居）うっ。

窪田　（芝居）石橋どこだ！　どこにいる？

石橋　（芝居）ああ～！！！

窪田　（芝居）石橋、今までありがとう！

石橋　（芝居）うっ。

　その間に室内のスマートフォンを拾い上げたゾンビ。安達も石橋も声を出さないようにしている。

ゾンビ　ラストシーンでしょ、もう撮り終えるんでしょ。
窪田　（素で）おい、それはやめろ。今までの映像全部入ってんだぞ。
ゾンビ　そのスコップで！ 俺を殴れ！（カメラを窪田に向ける）
窪田　俺を撮るな！
ゾンビ　さあ、殴れ！！！
窪田　バカなのか？ 素直なのか？
ゾンビ　殺せ！ やってみろよこら！ 殴れよ！
窪田　死にたくねえだろ！
ゾンビ　死にてえんだよ！

　スコップを振り上げる窪田、突如膝から崩れ落ちスマートフォンを手から落とすゾンビ。
　フライパンで効果音をつける石橋。

窪田　（スマートフォンを拾い上げ）あ〜あ、画面割れちゃった・・・。カット！！
ゾンビ　・・・なんで死ねないんだ。
窪田　危なかった〜。クランクアップでーす！安達おつかれ〜、石橋おつかれ〜。
安達　早くこのケチャップ落としたい。
ゾンビ　なんで殺してくれないんだ！

　撤収作業を始める三人。

ゾンビ　ラストシーンで殺すって言ってたじゃん。もう帰りたくないんだよ、親にも合わせる顔がないし。

窪田　それから僕たちは、ゾンビとともに車に乗り込み街へ向かいました。安達と石橋はゾンビを連れて病院に。僕は撮りたてホヤホヤの映像と遺書と撮影に使った機材を持って・・・こうして警察に出頭しました。

５場：最後の取調室

　　暗転。取調室。音楽 F.O.

警官　なるほどね、この映像の内容も確かに君の説明の通りだ。

窪田　これが、さっき話した遺書です。

警官　そういうの先に出してよ。重要な物的証拠だから。

窪田　すみません。

警官２　ゾンビとか言われてもねえ、そういうの信じられないよ。君のやったことはいずれにしても暴行でしょ。証拠があるんだから。

窪田　・・・ここまでお話ししたことが、僕のわかっていることの全てです。あとの問題は、実際のところ彼が何者なのかということだけだと思います。

警官２　君みたいにねえ、訳のわからないモン作って、人のこと小馬鹿にしていられる精神が、俺にはまともな人間と思えない。罪の意識ってものがない。

警官　おい、お前ちょっと出て行け。

　　警官２退場。

警官　あいつも熱くなってるんだ。許してやってくれ。

窪田　・・・これから僕らはどうなるんでしょうか。

警官　これを刑事事件として捉えられるかどうかが微妙なところなんだ。例えば生きている人を殴れば暴行罪。遺体を傷つければ死体損壊。でもゾンビへの加害行為について定めた法律なんて聞いたことがない。・・・つまり、実際に被害者がゾンビだったとしたら、君たちをさばける法律がない、ということになる。

窪田　無罪、ですか？

警官　どうかな・・・

窪田　自殺をする人って、死ぬ最後の瞬間まで、迷ってるんだと思います。

警官　迷ってる？

窪田　例えば、首を吊っても、遠のいていく意識の中で、最後の最後まで、死にたい気持ちと生きていたい気持ちがせめぎあってるんじゃないかと思うんです。

警官　そうかもしれない。でも本当のところは誰にも分からない。

窪田　あのゾンビと映画を撮ってたら、生と死がものすごい紙一重のような気がして・・・

　　駆け込んでくる警官2.

警官2　うわ〜〜〜〜〜〜〜！！

警官　おう。どうした。

警官2　・・・先輩、外が、外が大変なことになってます。

警官　大変？

警官2　とにかく大変なんです、ちょっと来てください。

警官　・・・ちょっと失礼。あれ、お前鼻血出てるぞ？

警官2　鼻血？・・・あ、ケチャップかな？

　　一人部屋に取り残される窪田。外の状況を気にして取調室を出る。

　　荒涼としたまちには人影がない。スコップを抱えながら警戒して歩く。

窪田　ゾンビ映画の始まりみたいだ・・・。

　　音楽。振り返るとゾンビ化した警官１・２、そして安達と石橋。

窪田　安達！・・・石橋！

ゾンビたちが窪田に迫る。窪田はリビドーとデストルドーの狭間で、スコップを振り上げる。

幕。